

## Red Wine Audio - Signature 30

アメリカにはオーディオ系ガレージメーカーがたくさんあります。またネット上にも Audio Circle という活発なガレージ系メーカーのフォーラムがあります。その中で話題のユニークな製品があります。それが Signature30 です。

Signature 30 は Red Wine Audio が開発した 2006 年 5 月頃に発表されたパワーアンプです。

特徴はパワーアンプなのになんとバッテリー動力でしかも片チャンネル 30W もの立派な出力があるということです。さらに 24 時間ものバッテリーでの連続動作が可能です。

30W/ch もでするので能率しだいではフロア型の大きなスピーカーでも十分駆動できます。

そこでなぜバッテリーを使うかというとノイズレスのクリーンな電源として使うためです。これにより比類ない SN 比が得られます。

オーディオ機器は電気で動くわけですから、最終的に電源がとても重要です。しかし一般家庭の AC にはいろいろなノイズが乗っていたり電圧変動があったり必ずしもベストではありません。そこでノイズフィルターをつけたり、クリーン電源をつけたり、ケーブルを変えたり、コンセントを変えたりと大変な苦勞をするわけです。

しかし AC の波形を完全にしても究極ではありません。なぜかというアンプに入ってくる AC の波形が完全であっても、アンプ中の電源部の AC-DC 変換プロセスのトランスやダイオードにもさまざまな問題があるからです。さらに電源によってはスイッチング電源のように AC ラインを伝って他の機器に影響を与える可能性のあるものもあります。

そうした中で最良の電源はなんといってもバッテリーです。バッテリーはもっともクリーンで安定的な電源を提供できます。また直接 DC で駆動できるので AC-DC プロセスが不要です。これでそもそも電源ケーブルもコンディショナーもいなくなり、日本もアメリカも関西も関東も夜でも昼でも等しく安定的にノイズフリーでクリーンな動作が期待できます。

問題はパワーアンプに向けたバッテリーですが、その回答は SLA(鉛蓄電池)を使うことです。これにより大電流が得られ、また内部抵抗も低いのでオーディオ用途には向いているそうです。(Sig30 に使われているものは実際にはセキュリティシステムによく使われているもののようです)

バッテリー駆動のプリアンプは Jeff Rowland のコヒーレンスなんかが有名ですが、このような高出力のパワーアンプで用いられるのはユニークといえます。

アンプの心臓部としてはデジタルのトライパス・モジュールを使用しています。つまりバ

バッテリー駆動の(Dクラス)デジタルアンプというわけです。内部はほとんどバッテリーのスペースで占められています。

バッテリーはデュアルモノのように左右がセパレートされています。またこの使用されている Paper-in-oil コンデンサもなかなかの隠し味のようなのです。

Sig30 は基本的にはパワーアンプですが、DACT のステップアッテネーターがついていてインテグレートッドアンプとしてそのまま CDP につないで使えます。レビューを見るとプリアンプをつけてもそう大きくは変わらないということで、はじめからこうしたプリ無しのパッシブな使い方を想定していると思います。またソースセレクトタありません(外付けでソースセレクトタがあります)。

このできるだけダイレクトでシンプルにするために信号経路を省くという考えは日本のガレージメーカーで言うところの 47 研究所のアンプを思い出しますが、ここも音のダイレクト感、鮮度感と言うものに非常にこだわっているわけです。

2007/2/24

ささき

hiro@sasaki.cc